

第1回東海ブロッククラブミーティング報告書

当クラブミーティング開催の目的は総合型クラブ活動を全国的に推進するため、創設支援クラブ関係者を対象としたクラブ設立に必要な情報や具体的取り組み方法を提供するものである。その実践方法は次のポイントである。

- ①三重県の2クラブより「創設から今日」に至るまでの事例発表を実施。既存クラブが抱える諸課題を共有する
- ②各班共グループディスカッションによる各クラブの現状認識と課題を把握するとともに、グループ内クラブのネットワーク強化と情報交換を図ることで、参加クラブの速やかな創設を目指す



1 事例発表（三重県内設立済2クラブ）

①発表テーマ「創設から今日まで」

三重県/とういんフレンドリークラブ クラブマネジャー 木村 宗朝氏

クラブの理念は「町民のみなさん、誰もが気軽に参加できるクラブ」で、今年度の活動方針は、「友達との和・輪・話をひろげましょう！」である。設立はH21年4月7日で、現会員数は400名、種目数は50種目で、未就学児童から小・中学生までを対象とした「チャレンジコース」、成人を対象とした「エンジョイコース」、だれでも参加でき野外活動などの幅広いプログラムの「ドリームコース」がある。

クラブの母体は体協・スポ少・体指で、町営総合体育館を主な拠点施設に活動している。クラブスタッフは40名であり内有給3名であるが、クラブマネジャーは非常勤で無給である。指導者数は約30名の体制である。

クラブ設立および設立後の運営において苦労したこととしては、「会費の設定」と「事務局員の選任」である。

現状の会費は「年会費と参加料」の2種類で、年会費は小・中学生1,000円、一般2,000円となり、それぞれプログラム別に参加料を徴収するスタイルで、参加料は月会費制を導入、H22年度の年間予算は830万円である。



②発表テーマ「創設から今日まで」

三重県/志摩スポーツクラブ 常任顧問 浜口 茂之氏

クラブの理念は「人の輪・地域の輪・スポーツの輪 みんなでつくる みんなのクラブ」で、活動方針は「子どもから高齢者の方々まで、楽しく気軽にスポーツに親しめるところ」である。設立はH18年2月5日で、現会員数は537名、種目数は16種目で、年間教室と月1回教室、

クラブイベントなどがある。

クラブの活動は、志摩B&G海洋センターを主な拠点施設にしており、クラブスタッフは19名であり内有給1名であるが、クラブマネジャーは非常勤で無給である。指導者数は43名の体制である。



現状の会費は「年会費と受講料」の2種類で、年会費は小・中学生1,000円、一般2,000円、シニア1,500円で、それぞれ年間スポーツ傷害保険が必要となる。プログラム別に受講料を徴収するスタイルで、H22年度の年間予算は590万円である。クラブ設立および設立後の運営において苦労したことは、現在5年目であるが設立時の市補助金があるがその後減額され「自主運営」に苦慮している。過疎地区の課題は、会員の確保と指導者のクラブ運営意識の高揚である。

2 グループディスカッション（4グループ）

共通テーマ

「理念の確立と経営資源（ヒト・モノ・カネ）の確保、事業のしくみづくり」について

○A班の発表は、以下のとおりである。

理念はクラブのエネルギー源であり、設立準備委員全員が同じ理念を共有することが重要である。また、プログラムの作成には良いものを提供することが大切で、特に子どもにはたくさんの自然体験プログラムが有効と考えるなどの意見があった。

また総合型のメリットは、同じことをやるのならこっちのほうが楽しいとか安いなどのPRをし、運動好きな子どもの育成を推進したい。とかくスポ少などは、子どもを運動嫌いにさせているとか、既にスポーツをやっている人は入りにくいとかの無いような雰囲気づくりや運営が大切であるという意見、最後にクラブ運営には、経営感覚が必要であるという意見があった。

○B班の発表は以下のとおりで、現在検討中のプログラムについての話題である。

現在検討中のプログラムについて各クラブの話題は、ニュースポーツのプログラムが主体で、子どもを対象とした体験会を実施（かわねライフ）、ボート、バレー、剣道の3種目体験が主体で、これ以外身近なスポーツの導入は検討中（長浜市）、アンケート調査を実施した結果を踏まえ、プログラムは水泳、ゴルフ、ジョギングの3種目を主体に検討中（きそさきAZクラブ）、プログラムは各教室の担当者が検討中。プレイベントの参加者に対し会員数は伸び悩んでいる（アプロス菊川）、ウォーキングや女子ソフトボールの募集をしたがあまり集まらない（岡部りゅうせい）、プレ活動をしているがプログラムに人気の差がある（南濃）、パンフレットの配布やアンケート調査を実施したが会員募集に苦慮している（みたけスポーツ文化）などであった。

その他の話題として、広報PR活動に苦慮している実態については、事務局のきめ細かな行動と会員のロコミが実績をあげている。また、スポ少を取り込みたいが大丈夫かという質問には、

クラブの理念（方針）によるが、既存のスポ少にはそれぞれに活動の目的があるので、どうその整合性を取るのかが重要という意見。競技スポーツと生涯スポーツの同時開催はどうかという質問には、時間帯や会場など別々に分けて実施すべきではないかという意見であった。

○C班の発表は以下のとおりで、まずは広報PR活動などについての話題である。

ロコミ効果は重要で、家族や友達への影響大である。元来スポーツはタダという意識があり「受益者負担」という認識は薄い。会費の価値は「プログラムの魅力」に比例している。立ち上げがゴールではない、地域に根差した「ビジョン」を持ったクラブ運営が大切である。現在、地域に根づいている事業を基盤に総合型クラブの創設をしたい。

謝金の相場、決定方法の話題については、会費の設定は参加料で講師料を賄うのが基本である。後で下げることができないので、最初は低めに設定すべきである。指導資格や参加人数などで謝金規定を作成し、指導者のモチベーションを高めたい。

クラブ事務局の確保については、元教師や体育指導委員などで協力者が多い。教室参加者の父母が協力者というケースもある。基本は自主運営であるが、行政との関わりも重要で拠点施設や運営助成金などの確保、条件がそろえば指定管理者というスタンスもあるという意見であった。

まとめとしては、総合型クラブを創設する目的が「地域づくり」であれば、クラブ「事業の継続」が重要である。



すなわち、事業の継続には「理念の確立と経営資源の確保」が大切で、クラブを新たに創設しようとしている皆さんは、これらを踏まえた「事業のしくみづくり」にしっかりと時間をかけていただきたい。

理念はそれぞれのクラブが「オンリーワン」であるべきだが、経営資源の確保はいかなる事業にも共通で、各クラブの「事業のしくみ」はしっかり構築していただきたい。そのためにも、創設にあたる「事務局体制」は重要で、しっかり準備すべきである。一般的には行政マンには定期異動があり、行政のスタンスでクラブを立ち上げてもうまくいかない。地域に根差したバランスのとれた体制を確保したい。

○D班の発表は以下のとおりである。

クラブの理念（ビジョン、ミッション）はあるかというテーマでは、母体が空手少年団で空手以外の種目団体との対話が難しい（芝川）、サッカークラブの7名体制が母体であるが、個人的な理念はある（可茂）、言葉ではわかるが理念を確立する行動は難しい（小山）、まずは総合型を理解する段階（二見）、体指8名体制を主体に活動している（各務原）、NPOのまちづくり事業を基盤に総合型クラブの活動に移行するため、理念はブレない（かわね）などである。

ヒト・モノ・カネについては、行政の関与が少なく、住民の総合型の理解が薄い。雇用保障がないとスタッフの確保が困難（可茂）、行政は人材バンクとしての役割・機能を持っているので活用すべき（二見）、活動拠点において、クラブが希望する時間が空いていない場合が多い（芝川、



各務原) などである。

まとめとしては、理念が統一されず一度準備委員会を解消した経験がある、また、運営側の世代交代で当初の理念が薄れる可能性もあるので、幅広い世代の意見も参考に理念の確立と全員への浸透が重要である。

また、割引チケットの活用で会員を増やしたり、各種助成事業の活用で教室備品を確保することも可能である。また、広報活動では、市広報誌の折り込みなども有効である。

今回は創設支援クラブが対象のため、最も重要且つ原点となるテーマでのグループワークとした。それは「クラブ理念の確立であり、事業のしくみづくりであり、そのための経営資源（ヒト・モノ・カネ）をいかに確保していくのか」というテーマで、どのクラブも避けては通れない要因である。参加者全員が自らの思いを発表することが第1歩であり、2回目も今回と同じメンバーでこのテーマの進捗状況を発表することになる。

記入者/東海ブロック地方企画班班長 板垣晶行